

日本最長最古の「塩の道」

日本海と太平洋を結ぶ



相良の塩の道

Sagara-Town
Shio-no-Michi



● 交通のご案内 ●

- 車
東名相良牧之原I.Cより12km、20分
東名吉田I.Cより国道150号經由
17km、30分
東名菊川I.Cより19km、25分
- 電車・バス
静岡駅前バスターミナルより
特急静岡～御前崎線60分
金谷駅より静鉄バス相良行45分

● お問い合わせ ●

相良町役場商工観光課

〒421-0592 静岡県榛原郡相良町相良275

TEL 0548-53-2622

FAX 0548-52-3772

ホームページ
アドレス <http://www.fuji.ne.jp/~sagara/>

E-mail Sagara@fuji.ne.jp



相良塩の道

信州に入る塩は、南の太平洋岸からの「南塩」（上塩）と、日本海岸からの「北塩」（下塩）がありました。

これらは九つのルートになって運ばれていたのです。

相良・秋葉道ルートはその一つで、相良から掛川、森、秋葉山、水窪を経て、南アルプスの秘境、西渡、明光寺峠、横吹、青崩峠を越え、遠山谷の和田に入り、上村、大鹿、高遠を経て、杖突峠を越え諏訪方面に送られました。

相良では揚浜式塩法といって、満潮面より高い所に塩浜が作られ、原料海水は人力で汲み上げ、砂面に散水する方式が行われるようになりました。

その工程は海岸の砂地を均らし、そこへ海水を汲み上げて来て何回か撒き、乾いたのち砂を集めて沼井に入れ海水で砂についた塩分を溶き、濃い塩水を釜で煮て塩をとるといふものです。



園 坂



相良町波津大原の秋葉山常夜燈から始まる秋葉道は、途中、園村に農業用水を引いた郷士の義人「紅林次郎右衛門」を祀った小田宮神社の前を通り、鬼女新田への別れ道を右にとって約900mで園坂登り回にかかるとなる。昔はこの道から80m程北に登り口があったというが、土砂崩れ等で廃道となり知る人もない。

明治以前から既に現在の園坂は利用され、約1kmの急坂を登りつめると須々木原である。秋葉道最初の難所であった。

園村常夜燈



園村は園坂登り口の部落で、相良町で最も早く拓けた村の一つであり、常夜燈は園坂の登り口から北へ200m程の茶畑の中腹にあり、崖に面して北向きのために出入りは不便である。

石造りの常夜燈には、「天保3壬辰年9月吉日」「村中」とあり、高さは192cmである。以前の建物は相良城内にあったものを移築したと伝えられているが、老朽化したので、間口162cm、奥行181cmの建物に建て替えた。

大原の常夜燈



相良城の北西の見付（現在の大原、飯津佐和乃神社の御旅所）にある秋葉山常夜燈ここから秋葉道が始まる。森町中山家所蔵「相良城絵図面写」（天保初期）にも秋葉道の名がある。元は砂岩・凝灰岩の常夜燈で、相良～金谷線沿いの御旅所の北隅にあった。正面中央下に、御影石に秋葉燈の文字が刻んでほめ込んである高さ195cmの秋葉燈があったが、燈室の風化が激しく倒壊の危険もあったので、防火貯水槽新設を機にコンクリート造りに変えられ5mほど南西に移動した。



小田宮神社

園村に農業用水を引いた郷士の義人「紅林次郎右衛門」を祀った神社。

京松原常夜燈



間口107cm、奥行123cmの古びた建物内には燈明施設は無く、秋葉山のお札箱だけが安置されている。

建物の周囲にはツタがからまり、朽ちかかったので、平成四年春造り直された。鬼女新田へ抜ける道沿い10m程の所にあるが、朝比奈地区の人たちだけで管理しているので、近所の人に聞いても知らない人が多い。

須々木原観音堂



信州街道が、今の相良・掛川往還と合流した三又路にあり、県道を拡幅した昭和十年（1935）頃まではここに笠松という巨木がありました。

堂には文化九年八月在銘の馬頭観音が祀られており、脇の道標には、正面に「地獄沢ヲ経テ平川ニ至ル」。一方に「相良ヲ経テ川崎ニ至ル」、片方に「相良ヲ経テ地頭方ニ至ル」と刻まれ、高さ70cm。大正十二年一月に建てられたものです。ここは江戸中期、平賀源内隠樓の草庵があった所という伝承があります。